

校長先生の言葉は皆さんの心に届いていますか？

前回、ここらへんで魚や貝の化石が見つかったので、海の底だったことがわかりましたということをお話しました。

そしてお題は日本書紀に「安閑天皇は535年9月に「牛を難波大隅（島）に放つ」書いてありました。ここが島だったということはわかりましたが、なぜ島だったら牛が飼いやすいのでしょうか？というものでした。

校長室前のボードには、今週もたくさんの書き込みがありました。ありがとうございました。草がたくさんあった、広い土地があった、水が多かったなど、良い答えがたくさんありました。また校長話が長いというのもありました。すいません。なるべく短くしますね。

そんなたくさんの意見の中に、今週のベストは「まわりが川に囲まれていて、安全だから」というものがありました。するどい視点で考えることができましたね！6年生と書いてありました。さすがです！どういうことかと言いますと、みなさん、牧場というとどんなものがありますか？牛、牛小屋、牧草ほかに…、そう柵が必要です。柵がなければ牛は逃げてしまうし、また他の動物が入ってきてしまう可能性もでてきます。

でも、柵のいない牧場もあります。どんなところで牛を飼えば柵はいりませんか？少しまわりの人と相談してみてください。

そう、小さな島で牛を飼えばいいのです。今回のベストアンサーの人も、周りが川だから安全ということとほぼ同じ意味ですね。

問題文をよく見て見ましょう！

「大隅島」でと書いてあるぞ…、大隅西ではない、なぜ校長先生は大隅島って書いたんだろう…と想像していきますと、自然と答えが見つかった

のではないのでしょうか。

これが深く考えるということです。テストの点数や、学年に関係なく、深く考える、想像する力は、全員が等しくもっています。注意深く問題を読み、考えるだけで解けた問題でした。

ということで、安閑天皇は、ここ大隅島の大きさを見て、ここなら牛を逃がさず、安全に飼えると考えたのですね。

さて、先ほどから校長先生は「うし」という言葉を出していますが、皆さんにそのことは届いていると思います。

牛と聞けば、このような動物ですね。これがなぜ「牛」という文字になるのでしょうか？少しまわりのひとと聞き合ってみてください。

高学年の人は気づきましたね。そう、初歩的な漢字はものの形や姿からできているのです。このように、牛を正面からみた姿が、漢字の牛になりました。これを漢字の中の象形文字と言います。1年生もやがて、山、火をならうと思いますが、初歩的な漢字はほとんどこれです。

このように私たちは、漢字などの文字や言葉で、気持ちを伝えたり、情報をやりとりしています。もちろん文字、言葉無くして勉強はできません。

では、今週のお題です。みなさんが一番好きな漢字を教えてください。1年生はまだ習っていないと思うので、一番好きなひらがなでもいいですよ。よかったら、いつものように校長室前のボードに書き込んでみてください。

今日も最後まで静かに聞いていただきありがとうございました。